



晩秋の新生園

今年4月、東北新生園に赴任し半年が経ちました。園内は桜の風景から銀杏、楓の木々の紅葉に変わっています。鮮やかな楓の赤、銀杏の黄色、少しくすんだオレンジ色など、周囲には素朴でどこか懐かしく里山のような風景が広がっています。遮る物がなく、高く澄み渡った秋空とのコントラストも風情があります。

早朝、稲刈りが終わったばかりの田園一面を朝霧が覆い、まるで雲海を思わせるような風景を通勤の車を運転しながら眺める時間は心が洗われるようです。駆け足で過ごしている日々は何なのだろうかと思わずにはられません。

最近見つけたもう一つの楽しみがあります。車を20分くらい走らせたところにある温泉の露天

風呂から見る夜の星空です。晴れた夜は澄んだ夜空に大小の星が輝いて見えます。

星座の知識がない私も飽きることがありません。

仙台から赴任してきた当初は、右も左もわからずに緊張の毎日でした。春のゲートボール大会、夏の花火大会、信子妃殿下をお迎えした寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会、そして、当園が主催したハンセン病コ・メディカル学術集会などなど、私自身初めての事ばかりでしたが、このような四季折々の自然と入所者の皆さまや職員の方々に励まされ過ごした6ヶ月間でした。

私共看護課は、「入所者一人ひとりの人権を尊重し、入所者中心の看護・介護の提供」を基本理念にして、入所者の皆さまが心地よく生活できる

次ページへ続く▶

目次	晩秋の新生園	総看護師長	菅原 セイ子
	マンモグラフィ検診を実施しました	診療放射線技師長	佐藤 正信
	第28回ハンセン病コ・メディカル学術集会に参加して		
	季節を感じていただく行事の紹介	第2メープルケアセンター・治療棟看護師長	山田 裕喜江
	納涼会	第2メープルケアセンター・治療棟介護長	遠藤 千鶴子
	文化祭	第1メープルケアセンター介護長	伊藤 陽子
	ひな祭り	山鳩センター介護長	高橋 有子
	行事・イベントの紹介		
	(入所者自治会創立70周年記念碑除幕式・物故者慰霊祭・敬老の集い・合唱演奏会の慰問・第18回寛仁親王妃杯女子コスモスGB大会・秋季バス旅行・パネル展屋台まつり・イルミネーション点灯式)		
		福祉室	澤田 佑子

理念

入所者の人権を尊重し、
安心で安全な生活を提供します

基本方針

1. 快適な療養・生活環境を提供します
2. 安心で信頼される医療の充実に努めます
3. やさしい看護と介護を提供します
4. ハンセン病の正しい知識の啓発普及に努めます
5. 職員の教育・研修に努めます

入所者の権利

当園では、園の理念に基づき、入所者のみなさまの

- 人格を尊重される権利
- 良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と情報を受ける権利
- 自己決定の権利
- プライバシーが保護される権利

を尊重します。

よう支援していきたいと思います。また、ライフサポートに関して、医師、リハビリ、栄養班などの多職種と協働したチームでの取り組みを充実し、入所者の皆さま一人一人の意向に寄り添った支援に繋がりたいと思っています。

これから立冬を迎え園周辺は冬の季節の風景になります。今年は、全国的な気象の変動の影響で厳しい寒さも予想されますが、この季節を乗り切

り、次迎える春の新生園の桜並木を楽しみにしたいと思います。



総看護師長 菅原 セイ子

マンモグラフィ検診を実施しました

当園では、2年毎に入所者の方のためにマンモグラフィ検診を行っています。

今年はその2年目で、平成28年10月28日に行いました。今回検診を希望された入所者の方は11名でした。私自身マンモグラフィの撮影が久しぶりでしたので、検診前に再学習し、撮影ポジショニングと圧迫・撮影手順等を繰り返しシミュレーションしました。また、マンモグラフィの撮影をするにあたり、X線の出力や画像処理等が規格の範囲で行えているかを判断するために、品質管理を行う必要があったので、専用のファントム（乳房組織模擬試料内蔵模型など）と専用画像モニターを使い、問題がないことを確認する作業も行いました。

検診当日は、念のため装置メーカーの方にも立ち会ってもらい、万全の体制で行うことにしました。

実際の撮影にあたり、入所者の方々には乳房を圧迫することによる痛みを我慢して頂いたり、取りにくい撮影体位をして頂いたりとお大変ご迷惑を掛けながらも、ご協力頂き無事撮影することが出来ました。なかでも、数名の方は座位で撮影する必要があり、いっそうご迷惑をお掛けしたと思います。その際も含め、今回の撮影では撮影介助に2名の看護師の方にお手伝い頂いたことで、比較的スムーズに撮影を進めることが出来たのではないかと考えています。

しかしながら、今回検診を行うまでには度重なるテスト撮影を行い、最終的にはメーカーの方の立ち会いの下で問題が無い事を確認して検診に臨みましたが、検診の途中で装置に動作不良が起こり、一時撮影できなくなるトラブルが起こりました。ただし、今回はメーカーの方が立ち会っていたため、早期に復帰（10分程度）する事ができ、無事当日に検診を終えることが出来ました。検診終了後、装置に関してメーカーの方にいろいろと調べてもらいましたが、その際は原因が特定できませんでした。このため、後日詳細にメンテナンスを行う予定を立てています。装置の経年変化による現象である可能性も踏まえ、今後は装置更新も視野に考えていきたいと思っています。

なお、検診の結果ですが、当園では遠隔画像診断システムが構築されていますので、仙台医療センターで読影をしてもらいレポートでの報告を受けています。

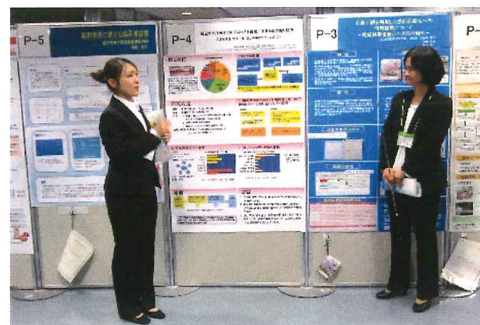
最後に、今回の検診にご協力頂いた関係各位の皆さまに感謝致します。

診療放射線技師長 佐藤 正信



第 28 回ハンセン病コ・メディカル学術集会に参加して

平成 28 年 10 月 14 日（金）～ 10 月 15 日（土）の 2 日間、仙台市の仙台情報・産業プラザ（AER）5 階に於いて「第 28 回ハンセン病コ・メディカル学術集会」が開催されました。今年の学術集会は、当園が主催の施設となっており、園内の様々な職種のスタッフが企画、会場準備、当日の運営、懇親会の開催、後片付け等協働で行いました。



全国の 13 のハンセン療養所から約 170 名という多くの皆さまに参加していただきました。いずれの療養所においても入所者の多くは超高齢化を迎えており、認知症入所者へのケア、多職種の職員が入所者の思いに寄り添い意向を尊重した関わり、そしてエンドオブライフや看取りについて等、口演 25 題、ポスター発表 16 題の発表が行われました。同じ課題を抱えているスタッフによるディスカッションが行われ、各施設の現状を知ると共に学びも多く大変有意義な時間を持つことが出来ました。



特別講演は、国立療養所長島愛生園基本治療科医師（元皮膚科医長）尾崎元昭先生による「ハンセン病医療のあゆみー療養所の過去、現在、未来」というテーマで、療養所の歴史をハンセン病医療の面から捉え直し、終焉期に入った療養所の課題と役割について貴重なお話を伺うことが出来ました。教育講演では、NHO 仙台医療センター救命救急センター長・救命救急部長・チーム医療推進室長の山田康雄先生により「東日本大震災における救急医療の実際と今後への提言」というテーマでお話を頂きました。5 年前の震災時も救命救急に携わり当時の実際と体験を通しての課題等につ

いてお話をいただきました。

学会 1 日目の夜には、懇親会が開催されました。各園を紹介する催しが施設毎にそれぞれ披露されました。当園では、学術集会に向けて練習した「パーフェクトヒューマン」のダンスを多職種の職員が力を合わせ全力で踊り、会場は盛り上がりました。他の施設でも工夫を凝らし、大変和やかな雰囲気でした。



2 日目の午後には、16 名の方が施設見学に参加していただきました。第 1 メープルケアセンター、第 2 メープルケアセンター・治療棟・資料館等をまわり、建物の中から霊安堂や一般寮、教会関係の建物を見ていただきました。他施設の方から、「東北新生園はよく整備されていますね」等の言葉をいただきました。

今回主催施設ということで園長はじめ副園長、総看護師長等様々な職種の皆様と協力し、第 28 回ハンセン病コ・メディカル学術集会を成功させることが出来ました。今後も入所者の皆様に満足していただけるよう、多職種の皆さんと協働していきたいと思えます。



第 2 メープルケアセンター・治療棟 看護師長 山田 裕喜江

季節を感じていただく行事の紹介



納涼会



入所者の皆様に、暑い夏の盛りの時期に少しでも涼しさを感じ、楽しいひとときをすごして頂きたいと思い食堂で納涼会を開催しました。内容は、くじ引きコーナー、お菓子すくい等自分で行って頂く種目を考え、どの様にしたらより楽しんで頂くことが出来るのか話し合い工夫しました。スイカ割りは昨年返は、木刀を持ち目隠しをしてスイカまで歩いて頂ましたが、入所者さんの高齢化に伴い安全も考慮し、今年は、椅子に座って頂き、一人一人の席にスイカを回し目隠しをしてスイカを叩いて頂きました。賑やかな声援の中、たちまちスイカは割れてしまいました。入所者さんが楽しみにしていたご馳走は、焼き肉と冷やし中華です。スタッフが心を込めて作りました。ベランダで入所者さんと一緒に育てた夏野菜やお肉やソーセージを焼いてお腹一杯食べていただきました。入所者さんから、「おいしかったよ!」という感想も聞かれました。今後も入所者さんに季節感を感じて、楽しんでいただけるようレクリエーションを企画して実施していきたいと思います。



第2メープルケアセンター・治療棟 介護長 遠藤 千鶴子



文化祭

第1メープルケアセンターは3階建てであり、1看護単位となっています。季節や年齢に合わせて毎日レクリエーションを行っています。また、春には花見、夏には七夕会、秋には文化祭、冬にはクリスマス会を行ってセンター全体の親睦を深められるように企画しています。今年も文化祭には入所者さんや職員が日頃からつくっている川柳や絵画、洋服、編み物等や野菜などを展示しました。その他に入所者さんの若かりし頃の写真や以前に作った洋服を展示しました。文化祭には他のセンターの入所者さんの方も



見学に来て「すごい〇〇さんが作ったのか」「この写真は〇〇さんで懐かしい」「前にこの野菜作った。これより大きくできた」などの生き生きとした表情で話をしていました。今後も1人1人の入所者さんが毎日楽しく穏やかに過ごしていただくように介護をしていきます。

第1メープルケアセンター介護長 伊藤 陽子



ひな祭り

山鳩センターでは、3月の行事で“ひな祭りの会”を毎年行っています。職員がお内裏様とお雛様に扮しますが、誰でもこの役になれるわけではありません。退職者を優先するという条件が付きます。入所者さんより「ひな祭りに退職者への感謝の気持ちを伝えるため、お別れ会を一緒に開催してほしい」という強い要望があり、実施しています。職員の手によって華やかな装いとなった退職者がお内裏様やお雛様になりきる姿に感動を受けました。祝い膳には入所者さんの手作り菓子や飲み物などが多数並び、余興では歌、踊り、楽器演奏など、日ごろの練習の成果を披露して頂きました。ひとりひとりが感謝の言葉を受け、感激し涙する退職者の姿を見た入所者さんやスタッフたちも感極まったようで、目を潤ませていました。感慨深い気持ちになり、この行事は忘れられないものになりました。



山鳩センター介護長 高橋 有子

入所者自治会楓会創立70周年記念碑除幕式を開催しました

平成28年9月7日、入所者自治会は今年度で発会70周年を迎え、これを記念してさくら公園に記念碑が建立され、除幕式が開催されました。戦後、県人会を基盤とした入所者の互助団体として、昭和21年9月7日に東北新生園互助会が発足し、同年の12月25日には改めて楓会として発会式が執り行われています。除幕式の当日は、園長より祝辞の言葉と、自治会長を長年務められている久保会長に花束が贈呈されました。



物故者慰霊祭を挙行了しました

記念碑除幕式と同日に物故者慰霊祭が執り行われました。宮城県宗務所十四教区より曹洞宗の僧侶様に追善供養の法要を与り、入所者の皆様や職員が参列致しました。初代の霊安堂は宮城県北部地震によって損壊したため、昭和61年に現在の場所へ移されています。総物故者数は833名、438柱のご遺骨が納骨されており、故人のご冥福をお祈りしました（平成28年12月19日現在）。



敬老の集いを開催しました



平成28年9月16日、郷みん`S（きょうみんず）の皆さんをお招きし、敬老会に花を添えて頂きました。郷みん`Sは、おもだか秋子さん、椿正範さん、小林奏貴さんの3名で、唄と津軽三味線と舞踊を各々担当されているユニットです。宮城県を代表する郷土民謡として大漁唄い込みの「斎太郎節」と「遠島甚句」の2曲から始まり、北海道・青森・宮城・山形・福島・東京の各地の民謡を披露され、息の揃った躍動感のある演奏に会場は大盛況でした。

登米市立新田中学校による合唱演奏会が行われました

民謡に引き続き、新田中学校の3年生が日頃の成果を発揮され、新生会館に活気のある声が響き渡りました。当園は学区内に設置されていることから、新田小中学校の分校として葉ノ木沢分校が開校し、花の鉢植えや演劇の発表等の交流も行われて来ました。合唱慰問は、生徒さんがハンセン病に関するシンポジウムに参加されたことや、学校で合唱活動を熱心に取り組まれていることをきっかけに、平成22年より継続されています。



第18回寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会を開催しました

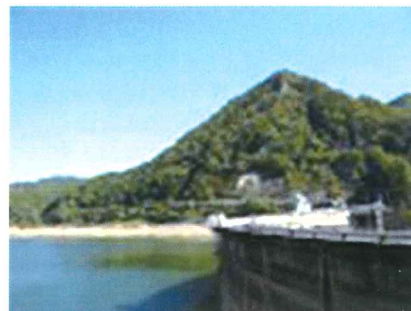
平成28年9月30日、宮城県内と岩手県より合計30チーム、約200名の参加者が青空の下プレーを楽しみ、本年も寛仁親王妃信子殿下にご臨席を賜りました。紫や白のコスモスが彩る中お成りになった信子妃殿下は、始球式でゲートインされた後、試合をご覧になり、参加者と笑顔で交流、また資料館等も見学なさいました。本大会は、平成11年に寛仁親王殿下より寛仁親王妃杯を下賜されたことを機に、毎年開催しています。今年度は熱戦が繰り広げられた結果、気仙沼市の気仙沼クラブが優勝しました。



秋季バス旅行を実施しました

平成28年10月19日、自治会主催のバス旅行が実施されました。このバス旅行は年に2回開催されていますが、仙台市の定義如来西方寺は秋季恒例の行き先となっています。昼食を挟み、境内の見学や定義山名物の三角油揚げを買い求める入所者の方もいらっしゃいました。帰路には大倉ダムの高所にある細道を通り、大型のバス

で通過した際には自然と拍手喝采が沸き起こりました。翌日は強い寒風が吹いていたので、穏やかな秋晴れの日に実施出来て何よりです。



パネル展・屋台まつりを開催しました

平成28年11月8～9日、パネル展・屋台まつりを開催しました。パネル展では入所者の詩歌や各センターの作品、園内の写真等を展示致しました。9日は、屋台まつりのステージに宮城県出身の演歌歌手である西夕子さんをお招きし、来賓の方々や入所者・職員で会場は満席となり、「北国の春」や「365歩のマーチ」を一緒に合唱しました。その中で、屋台を模して寿司・焼きそば・芋の子汁が振る舞われました。会場の様子は実況生中継され各居室のテレビで鑑賞することが可能になっています。過去には、秋の文化祭の一環として入所者が育てられた盆栽や菊、野菜の品評会も行われていました。



イルミネーションを装飾・点灯しました

今年も毎年恒例となっているイルミネーションを第1・第2メープルケアセンター間の渡廊下、外庭、外壁を利用し装飾しました。このイルミネーションは11月25日～翌年1月5日までの期間、毎日午後4時から午後9時まで点灯し、入所者の皆様は勿論のこと、近隣の皆様にもご覧いただけるよう室内に見学・休憩スペースを設ける等準備しています。11月25日、イルミネーションの点灯にあたり、園長を始めとする施設関係者並びに入所者の皆様の参列を得てイルミネーションの点灯式を実施しました。園長、総看護師長並びに入所者自治会長による一斉のスイッチオンによりイルミネーションがクラッカーの音と共に点灯されました。会場ではサンタとトナカイに扮した職員より手作りのカップケーキ等が配布され、会場にお越しになれなかった入所者の皆さまには後日サンタとトナカイが各センターへ出向きお届けしました。正面玄関には幟旗を設置して地域の方々にも楽しんで頂けるようお知らせしています。



職員募集

当園では、次のとおり職員を募集しております。採用を希望する方はお気軽にお問い合わせください。

1. 採用職種
 - ①看護師 ②看護助手
- 1) 身分
 - ①定員職員 ②期間業務職員
- 2) 採用予定期間及び採用人員
 - ①採用の日～ 2名
 - ②採用の日～ H29.3.31 5名
(年度更新)
- 3) 応募資格
 - ①看護師免許取得者 ②経験・資格不問(どなたでも応募できます。)
- 4) 勤務内容
 - ①看護業務(三交替制、早出・遅出有り)②介護業務(日勤、早出・遅出有り)
 - ①②1日あたり 7時間45分 週38時間45分勤務
- 5) 加入保険等
 - ①共済保険、共済年金 ②協会けんぽ、厚生年金 に加入
 - ※②の職員は、1年経過後から共済保険に加入となります。
- 6) 応募方法

市販の履歴書に写真貼付、看護師は免許証(写)を郵送又は持参
豊かな自然に恵まれ、四季折々の行事、数々の訪問行事を行っておりますので、
入所者の皆さんと関わり合いながら楽しみながら当園で働いてみませんか。
看護・介護の研修体制も充実しておりますので、
初めての方も心配なく安心して働くことができます。
興味のある方は、当園のホームページに、看護課の方針、看護体制、研修計画、
処遇等を掲載しておりますので是非ご覧いただき、お気軽にお問い合わせください。
- 7) お問い合わせ、応募先

〒989-4692 宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1
国立療養所東北新生園
TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765
E-mail 2302sy01@sinseien.nhds.go.jp



入所者数の推移

年度	入所者数			退所者数					平均入所者数
	再	新	計	軽快	死亡	転園	その他	計	
18			0		7			7	156.2
19			0		7			7	148.4
20			0		10			10	139.9
21			0		2			2	135.2
22			0		10			10	129.4
23			0		14			14	118.0
24			0		11			11	105.1
25			0		10			10	95.3
26			0		4			4	86.7
27			0	2	9			11	79.6



発行元 国立療養所東北新生園
National Sanatorium Tohokushinseien

発行責任者 国立療養所東北新生園
広報誌編集委員会

〒989-4692
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765
URL <http://www.nhds.go.jp/sinseien/>
E-mail admin@sinseien.nhds.go.jp